

コロナに負けない「新しいつながり方」

葛城市社会福祉協議会

【説明】

昨年から続くコロナ禍において、様々な地域活動が自粛や縮小を余儀なくされています。

コロナを理由に「できない」理由を探すことは簡単ですが、葛城市では「できる事」「できる方法」を住民の皆さん、市内事業所とともに考え、ICTの活用や、屋外でのつながり作りを実践しています。

◆テレワークの普及にともないICTの普及が急速に進む中、世代を超えた交流や、ボランティア活動の可能性を広げるためにICT活用を取り入れました。直接「会って」交流することには劣る面もありますが、様々なプラス面も発見できました。

<ICT活用のプラス面>

- ・コロナの影響を受けることなく「諦めかけていた」交流の機会を持つことができる。
- ・発表の機会を持つことで、意欲をもって練習に取り組むことができる。(やりがい)
- ・相互通信することで、一方的に「見る」「聴く」だけでなく、交流内容が充実した。
- ・準備や移動などにかかる「手間」と「時間」が大幅に減った。気軽に交流会が出来そう。
- ・インターネット環境があれば、自宅のリビングからボランティア活動ができる。

<マイナス面>

- ・機材のセッティングなど慣れるまで大変。リハーサルなど回数を積むことが大切。
- ・有線、無線のインターネット環境がない場所は、ポケットwi-fiなど必要。
- ・画面を通しての交流なので、直接の「ふれあい」は及ばない。

◆屋外での居場所づくりの推進をすることで、図らずとも子どもから高齢者までが参加できる「居場所」になりつつあります。畑作業の経験がある高齢者が、子どもや若者に「こうやって植えるの」と教えることで、高齢者の役割、生きがい、社会参加にもつながります。

地域共生の支え合いを育むための「居場所づくり」はコロナに負けない屋外から始めます♪

